

e004006	[宮之浦区]えびす	概要 適用
 <p>a001001001) 名残の松原</p>  <p>a001001002 名残の松原</p>  <p>a001001003 名残の松原</p>  <p>a001001004 名残の松原</p>  <p>a001001005 塚崎</p>  <p>a001001006 塚崎</p>  <p>a001001007 塚崎</p>		<p><b>【概要】</b></p> <p>エビスとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恵比寿は、人々の生業を守護し、福利をもたらすと信じられている民間神。</li> <li>・七福神のひとつ。</li> <li>・もともと漁業の神であったが、後に商業の神にもなった。</li> <li>・少数であるが、えびすを少彦名神や彦火火出見尊とすることもある。</li> <li>・九州南部には、漁期の初めに海中からえびすの御神体とするための石を拾うという風習があるという。</li> <li>・恵比寿は、記紀神話の国生みの物語に登場する水蛭子(ひるこ)と習合する。</li> <li>・水蛭子＝海神＝漁業の神</li> </ul> <p>屋久島のえびす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋久島のえびすに二系統ある。</li> <li>・鯛または鰹を抱いた恵比寿と丸い自然石を祀った恵比寿。</li> <li>・魚を抱えた恵比寿はカツオ漁のもの。</li> <li>・丸い自然石を祀ったエビスはトビウオ漁エビス、あるいは浦島様といひホイドン(神職)が祀った。</li> <li>・自然石をおがむ豊漁の龍神信仰は古くからあり、法華宗僧侶が係わり、後にトビウオ豊漁の信仰対象になった。</li> <li>・屋久島で鰹漁が盛んになった江戸時代以降に本土から恵比寿信仰がはいり、魚かかえ像がおがまれた。</li> </ul> <p>宮之浦のえびす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮之浦には三カ所かり、いずれも漁民の漁業の神。</li> <li>・現在、名残の松原にある恵比寿は、かつて宮之浦川左岸に祀っていた恵比寿</li> </ul>



a001001008

一品が浦



a001001009

一品が浦

が引っ越したものの。

・一品が浦のえびすは川向神社と同時期に益救神社から分祀された。

【文献・資料】

・下野敏美著 屋久島もっと知りたい(人と暮らし編)P266

・島田裕巳著 なぜ八幡神が日本でいちばん多いのか(漁業と商業の神恵比寿5127/5338)

・宮之浦散策絵図

【写真】

e004005001)\_名残の松原えびすは朱に塗られた木製祠の中

e004005002)\_朱に塗られた木製祠の正面

e004005003)\_鯛または鯉を抱いた恵比寿である

e004005004)\_祠にはお供えものが絶えない

e004005005)\_塚崎は屋根などが朱に塗られたコンクリート製の祠の中

e004005006)\_鯛または鯉を抱いた恵比寿である

e004005007)\_朱に塗られたコンクリート製祠の正面

e004005008)\_一品が浦は屋根が朱に塗られたコンクリート製の祠の中

e004005009)\_鯛または鯉を抱いた恵比寿が二体あり手前は首が無い